

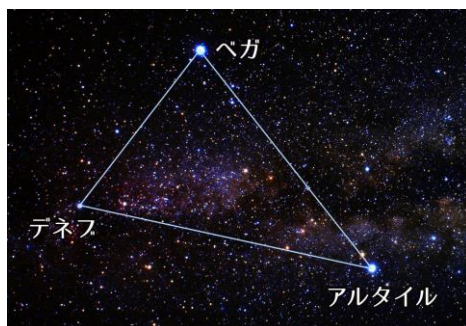
九条北小学校 校長室だより

NO.43 令和2年7月6日



七夕の言い伝えのもとになったといわれる「夏の大三角」を見つけてみませんか。7月7日は、もっとも「夏の大三角」が見つかりやすい日のようです。

4年生の理科でも学習します。



★ 七夕の言い伝え～「夏の大三角」を見つけてみよう! ★

夏の夜、8時～9時頃に東の空を見上げると、3つの明るい星が見つかります。それらの星を線で結ぶと大きな三角形ができます。これを「夏の大三角」といいます。**ベガは織りひめ、アルタイルはひこ星**です。これらの星は7月7日ごろにいちばんよく見えることから、七夕の言い伝えが始まったといえます。ロマンチックですね。7月7日の夜には東の空をお見逃しなく!

もう少し具体的に「見つけ方」を紹介します。東の夜空を見上げて、一番空高いところで明るく輝いている白い星が、**こと座の「ベガ」**です。夏の大三角の中で一番明るいので、最初に見つけやすい星です。「ベガ」からこぼし2個分くらいのところにある明るい星が、**はくちょう座の「デネブ」**です。「ベガ」からこぼし3.5個分くらいのところにある明るい星が、**わし座の「アルタイル」**です。これらの「ベガ」「デネブ」「アルタイル」の3つを結んでできるのが**夏の大三角**です。

★ 7月7日は「七夕」～七夕の由来、知っていますか? ★

広辞苑には次のように説明してあります。

五節句の一つ。天の川の両脇にある牽牛星と織女星とが年に一度相会するという、七月七日の夜、星を祭る年中行事。中国由来の乞巧奠(きこうでん)の風習と日本の神を待つ「たなばたつめ」の信仰とが習合したものであろう。奈良時代から行われ、江戸時代には民間にも広がった。庭前に供物をし、葉竹を立て、五色の短冊に歌や字を書いて飾りつけ、書道や裁縫の上達を祈る。七夕祭。銀河祭。星祭。

子どもたちにわかりやすく説明したものは、こちらです。

七夕は、昔、中国から日本に伝わった星祭りです。ひこ星と、織りひめという男女の星が、天の川をはさんで向かい合っていて、この2つの星が、1年に1度、7月7日にだけ会えるという言い伝えから、祭りが始まりました。

七夕の言い伝えとは、“はた織りが上手な神様の娘『おり姫』と働き者の牛飼である『ひこ星』は、神様の引き合わせで結婚し仲良く過ごしていましたが、楽しさのあまり仕事をせずに遊んでばかり。激怒した神様は天の川の両端に引き離してしまいましたが、悲しさのあまり元気をなくした2人を見かね、7月7日を年に1度だけ会える日として許しました。”

人々は「織りひめさまのように、はた織りやおさいほうが上手になりますように」「織りひめさまのように願い事が叶いますように」と、野菜やくだものをそなえて、おまつりをするようになりました。やがて、いつしか人々は「上手に字が書けますように」「織りひめさまのように願い事が叶いますように」と、笹や竹に五つの色の短冊をかざるようになりました。

